

瑞浪市議会 総務民生文教委員会 行政視察報告書



兵庫県加西市議場

期 間 : 令和5年11月8日(水)～ 11月9日(木)

視察地 : 兵庫県加西市・丹波市

視 察 日	令和5年11月8日(水)～11月9日(木)	
視察人数	委員長 三輪田 幸泰 副委員長 渡邊 康弘 委 員 榛葉 利広 福永 泰子 奥村 一仁 大久保 京子 加藤 輔之 棚町 潤 随 行 者 議会事務局 吉田 敏明	
視察日時 及び場所	11月8日(水) 14:00～15:30	【兵庫県加西市】 加西市役所 ◎ 子育て支援の取り組みについて
	11月9日(木) 11:00～11:50 13:00～14:50	【兵庫県丹波市】 丹波市役所 山南支所 丹波竜化石工房「ちーたんの館」 ◎ 複数学年複数担任制について ◎ 丹波市の教育資源を活用した教育について (丹波竜化石工房「ちーたんの館」施設見学)
視察行程	【11月8日(水)】 8:30 瑞浪駅 集合 8:49 瑞浪駅 発 ↓ (JR中央本線) ↓ (東海道・山陽新幹線) ↓ (JR神戸線) ↓ (JR加古川線) ↓ (北条鉄道) 12:32 北条町駅 着 ↓ (徒歩) 12:40～ 13:30 昼食(加西市内) ↓ (加西市公用車) 13:50 加西市役所 着 14:00～ 15:30 【視察】加西市役所 ①子育て支援の取り組みについて 15:40 加西市役所 発 ↓ (加西市公用車) 16:00 ホテル(加西市内) 着 ↓ (徒歩) 18:00 夕食(加西市内)	

視察行程	【11月9日(木)】	
	9:00	ホテル 発
		↓ (タクシー)
	9:40	社町駅 着
	9:57	社町駅 発
		↓ (JR加古川線)
	10:36	久下村駅 着
		↓ (徒歩)
	10:50	丹波市役所山南支所 着
	11:00～	【視察】丹波竜化石工房「ちーたんの館」 ①丹波竜化石工房「ちーたんの館」について
	11:50	
		↓ (敷地内移動)
	12:00～	昼食 (丹波市山南住民センター内)
	12:50	
		↓ (敷地内移動)
	13:00～	【視察】丹波市役所山南支所 ①複数学年複数担任制について ②丹波市の教育資源を活用した教育について
	14:50	
	14:50	丹波市役所山南支所 発
		↓ (丹波市公用車)
	15:16	谷川駅 発
		↓ (JR福知山線)
		↓ (東海道・山陽新幹線)
		↓ (JR中央本線)
	18:40	瑞浪駅 着
	18:45	瑞浪駅 解散

視察内容	【兵庫県加西市】 ◎ 子育て支援の取り組みについて 加西市では、子育て支援の一環として、加西市内居住者を対象に「5つの無料化」(①保育料の無料化、②給食費の無料化、③医療費の無料化、④オムツ等の無料化、⑤病児・病後児保育の無料化)に取り組んでいる。 保育料については、認定こども園や保育所などにおいて、0歳児から5歳児までを対象に無料としている。認定外保育施設においても、0歳児から2歳児までは42,000円を上限に、3歳児から5歳児は37,000円を上限に補助している。 給食費については、こども園や保育所において3歳児から5歳児までの給食費を、市内小中学校及び特別支援学校に通う児童・生徒の給食費を無料としている。なお、市外のこども園や保育所についても無料、市外の義務教育施設についても補助金を交付している。   医療費については、18歳に達した年度末(3月31日)までの方を対象に無料としています。オムツ等については、コープこうべと提携して、生後3か月から満1歳になる月まで子供を持つ家庭を対象に毎月1回、子育て用品(3,000円相当)を配達している。なお、子育て経験のある方が配達しており、子育ての相談や情報提供も行っている。 病児・病後児保育については、市内の小児科クリニック(さかいこどもクリニック)と提携し、子供が病気で学校やこども園などに通えず、保護者が看護できない場合にクリニック併設の保育室で一時的に預かり、その費用を無料としている。 なお、この無料化に係る財源については、ふるさと納税(R4受入額が63億6,075万円(兵庫県1位))を充当している。
委員の主な意見	・子育て支援(子育て応援5つの無料化)について、本市においても事業化できるものは提案していきたい。 ・病児病後児保育の無料化について、民間のクリニック併設の保育室で一時預かりを実施していることは、小さい子どもの育児をしながら働いている親に対して効果的な事業である。 ・5つの無料化の財源は多額のふるさと納税を充当しているが、大半がこの地域で発展している地場産業で製造された物をふるさと納税の返礼品としている。本市でも陶磁器など地場産品をPRしながら、ふるさと納税額をアップさせる必要性を感じた。
委員長所感	5つの無料化の中には本市でも実施されていないような先進的な事業を学習することができた。特に、オムツの無料化事業については、「コープこうべ」の協力を受けて実施していたが、本市内でも「コープぎふ」が営業されているので、本市だけではなく近隣市と連携して取り組むことができないか検討していきたい。

視察内容	【兵庫県丹波市】 ◎ 複数学年複数担任制について 丹波市立中央小学校では、4・5・6年生の学年（現在は5・6年生）において、子どもの自立力アップや教師の授業力・元気力アップを目的に、学級担任制を廃止して教科担任制と複数担任制を併せ持つ新しい担任システム（複数学年複数担任制）を導入している。 この制度のメリットとして、多くの教師と関わることを楽しみ、自分で考えて行動する児童が増えたことや、教師についても、教科指導の専門性が高まる、チームで対応することにより責任が分散しストレス軽減につながる、「自分の学級」という意識が少なくなり年休取得や残業減少につながるなどの成果がある。 その反面、1人の教師に見てもらいたい児童にとっては不満がある、児童の一日の中での変化に気がつきにくい、児童についての情報共有（不登校・いじめ対応・生徒指導案件など）や時間割編成などに時間がかかるなどのデメリットもあり、今後の検討課題としている。  
委員の 主な意見	・複数学年複数担任制は、教師の働き方改革や児童の教育に対して非常に大きな効果が期待できる制度であり、本市においても今後予想される複式学級において可能なものは取り入れることを提案していきたい。 ・複数学年複数担任制のデメリットとしては、複数の教師がたくさんの児童を受け持つことにより責任が分散され、児童一人ひとりに目が行き届かない場合があるため、この制度を取り入れる前に保護者へ十分な説明が必要となる。
委員長 所感	この制度のメリットの中で、特に教師について、チーム対応に伴うストレス軽減や年休取得や残業減少につながるなどの成果があるとのことである。教師の働き方改革を進めていく上で、本市においてもどのように取り入れていくのかを検討する必要がある。

視察内容	◎ 丹波市の教育資源を活用した教育及び丹波竜化石工房「ちーたんの館」について 恐竜（通称 丹波竜）の化石が平成 18 年に丹波市内の河川敷で発見されたことを契機に、平成 19 年、丹波市は「恐竜を活かしたまちづくり課」（現在の恐竜課）を発足し、地域の活性化に結びつけるまちづくりを目的とした「丹波竜の里計画」の策定、化石のクリーニング作業や発掘状況の情報展示などを行う体験型学習施設として「丹波竜化石工房」（平成 22 年に「ちーたんの館」としてリニューアルオープン）を設置した。 恐竜課においては、丹波竜化石を地域資源として愛着を持っていただくため、平成 21 年にマスコットキャラクター「丹波竜のちーたん」を誕生させて、地域のイベント等で丹波市や丹波竜を PR するとともに、丹波竜化石を題材としたセミナーやワークショップを毎月 1～2 回実施している。   また、学校教育課においては、恐竜課と連携して化石工房等を活用した校外学習を市内小学校全校（6 学年）で実施、丹波市の自然・歴史・文化・産業・人物などの教育資源を活用して豊かな心やふるさとへの愛着・誇りを養う「たんばふるさと学」、全国の恐竜化石発見市町村との自治体ネットワークを通じてその自治体の小学生と交流しながら恐竜を題材とした学習を行う「竜学」を実施するなど、教育資源を活用した様々な教育を推進している。その成果として、小学生は地域の良さを実感するとともに人間性や社会性などを養っている。
委員の 主な意見	・ 丹波竜を核として「地域おこし」を推進し、ふるさとへの愛着と誇りを育み、未来の丹波を担う人を育てるため、「たんばふるさと学」として取り組んでいるが、このように地域を取り込んだ「地域教育力」の向上を進めている事例は、本市のコミュニティ・スクールの中にも取り入れていくことが必要と考える。 ・ 丹波市の子どもたちを恐竜に関係する自治体に派遣する「竜学」は、子どもたちの意見交流の場だけでなく、恐竜に関連する地域をつなぐ事業にもなっており、同じ化石の産地である本市においてもこのような交流事業を提案していきたい。
委員 長 所 感	恐竜課では、丹波竜を中心とした様々な恐竜化石の展示、丹波竜についての体験学習や情報発信を実施しているだけでなく、様々な催し物やご当地の物販等の販売も展開していた。 本市も、デスモスチルスやパレオパラドキシアなど哺乳類の化石が発見されており、このような学術的価値の高い化石を観光資源として関係各所と連携しながら物販の販売やマスコットキャラクター（デスモくんなど）の活用を展開できればと考えている。

兵庫県加西市 視察資料

(1) 子育て支援の取り組みについて



加西市の 子育て支援の取組み

加西市政策部 政策課



スライド目次

01 加西市の概要

- 市の紹介
- 人口推移
- 出生数と合計特殊出生率

02 ライフステージに応じた子育て支援事業

- 結婚支援～妊娠・出産支援～子育て支援
- 「子育て応援5つの無料化」
- 市の子育て関係施設
- 子育て支援に係る主な成果
- プロモーション戦略

03 定住化に向けた各種取組み・今後の課題

加西市の紹介

●沿革

- ・昭和42年4月：3町（北条町・加西町・泉町）が合併し「加西市」が誕生
兵庫県下21番目の市として発足
- ・昭和61年：人口が**53,000**人を超える。（市制発足以来最多）
- ・平成27年：市制50周年

●面積：150.22km²

●人口：41,987人（令和5年10月31日）

●世帯数：18,505世帯（令和5年10月31日）

●特色

- ・内閣府「SDGs未来都市」に選定【令和4年度】
- ・環境省「脱炭素先行地域」に選定【令和4年度】
- ・「気球の飛ぶまち加西条例」の制定【平成28年度】
- ・「ものづくり」のまち（市内総生産の52.2%が製造業）
- ・**ふるさと納税全国13位（令和4年度実績／6,361百万円）※兵庫県内1位**



三洋電機発祥の地でもあり、全国的に有名な電化製品等が製造されています。

2

加西市の紹介



■気球（市内上空）
例年11月下旬から5月上旬の早朝に、加西市の空を気球が飛びます。



■アスモ
屋内型の子ども遊戯施設（保育士も常駐）と子どもを預けながら働くことができるワークスペース等を備えた複合型施設



■北条鉄道
加西市の北条町から小野市の粟生駅までの13.6kmを結ぶ鉄道。（所要時間22分）
※昭和60年に第3セクターとして開業



加西市の総人口の推移と国の将来推計



資料：総務省「国勢調査」(1985～2015年)

「まち・ひと・しごと創生本部」による推計(社人研推計)(2020年以降)

加西市では、慢性的な人口減少が続いており、1986年の53,056人をピークとして人口の減少が続いています。2018年には、25年ぶりに転入超過には転じましたが、図表のとおり、将来にわたり、年少人口(0-14歳)と生産年齢人口(15-64歳)がともに減少する一方、老年人口(65歳以上)は増加していき、少子高齢化が進んでいくことが予想されています。

4

出生数と合計特殊出生率の現状

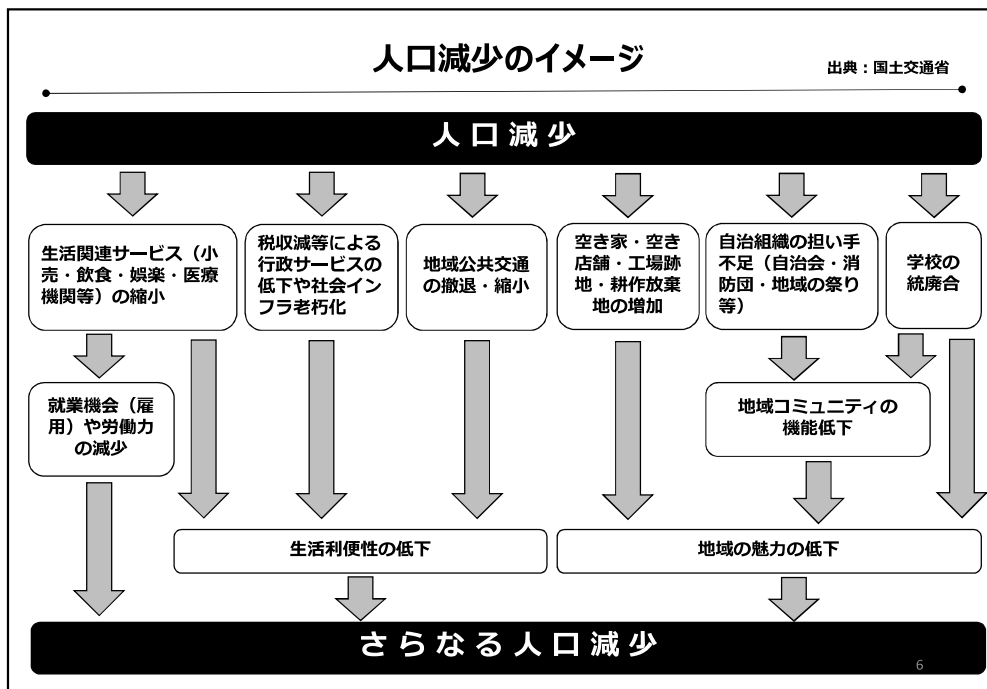
■ 加西市の出生数

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
出生者数	270	302	253	250	240	190	174	197

■ 合計特殊出生率の推移

	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
加西市	1.35	1.39	1.29	1.28	1.28	1.17	0.91	1.11
国	1.45	1.44	1.43	1.42	1.36	1.34	1.30	1.26
兵庫県	1.48	1.49	1.47	1.44	1.41	1.40	1.36	1.31

5



結婚支援

番号	事業名	事業概要	R5年度 予算 (千円)
1	加西市出逢いサポートセンター 事業 【H29年度～】	「晩婚化・未婚化の進行」に対する取り組みとして、社会全体で結婚を応援し、男女の新たな出会いを支援する取組みをH29年度から実施。 ※登録料無料 ※R4年度末相談登録者数142名、サポーター数：11名	9,000
2	加西市結婚新生活支援事業 【R3年度～】	結婚に伴う経済的負担を軽減するため、新婚世帯に対して、新居の敷金・礼金や引越費用、住宅のリフォーム費用の一部を補助。 ※上限30万円（夫婦の双方の年齢が29歳以下の場合は、60万円） ※R4年度実績 19件（3,603千円） ※国の「地方少子化対策重点推進交付金」を活用	8,000
3	加西市新婚世帯向け家賃補助制度 【H19年度～】	新婚世帯の市内への定住を促進するため、市内の民間賃貸住宅に居住する新婚世帯等に対して家賃の一部を補助。 ※12,000円/月（最長3年間） ※条件：婚姻届出日より3年以内の申請、夫婦の合計年齢80歳未満 ※R4年度実績（新規認定） 47件（3,456千円）→市外転入：18件、市内転居：29件	12,000
4	加西市若者定住促進住宅補助制度 （マイホーム取得費用の補助） 【H22年度～】	市内に住宅を新築または購入し居住する若者世帯や子育て世帯に対し補助金を交付。 ※上限50万円（借入額の5%） ※申請者と配偶者の合計年齢が80歳以下 ※R4年度実績 73件（33,723千円）→市外転入・同居近居：61件、左記以外：12件	34,000

8

妊娠・出産支援

番号	事業名	事業概要	R5年度 予算 (千円)
1	妊娠・出産包括支援事業 （産前産後＆産後ケア） 【H28年度～】	妊娠期から子育て期の育児に関する悩み等に対応するため、専門的な立場から切れ目のない相談を実施。また助産師、保健師等の訪問や医療機関等における宿泊型支援を実施。 ※産後ケア 日帰り1,500円、宿泊2,500円、訪問500円	1,500
2	かさいすくすく子育て定期便 【R4年度～】	毎月1回、子育て経験のある配達員が子育て用品（3,000円相当）をお届けし、子育て相談や情報提供をする。 ※生後3ヶ月～満1歳まで	20,550
3	●出産祝い金（市独自） ●出産・子育て応援給付金 （国支援） 【R4年度～】	【出産祝い金（市独自）】 →出生のお祝いとして5万円を支給 ※R4年度実績 203件（10,150千円） 【出産・子育て応援給付金（国）】 →妊娠に5万円（母子手帳交付時）＋出生時に5万円。 ※R4年度実績 462件（23,100千円）	31,750 ※市独自：10,000 ※国：21,750
4	特定不妊治療費助成 【H23年度～R5年度】	体外受精および顕微授精（特定不妊治療）を受けられる夫婦に対し、経済的な負担の軽減を図るため、特定不妊治療費助成事業を実施。男性不妊治療に対しても、助成あり。（県事業）※上限5万円 ※R4年度実績 37件（1,646千円）	2,400
5	ごみ袋の無料配布 【H22年度～】	3歳未満の乳幼児のいる世帯に対し、家庭ごみ有料指定袋（45ℓ袋）を年間50枚（最大150枚）を支給 ※0歳児：150枚、1歳児：100枚、2歳児：50枚 ※R4年度実績 78,500枚（1,083千円）	1,140
6	市内バスの無料化 【H28年度～】	子育て世代を中心に市内のバス代を無料化 （対象：中学生以下の子ども、妊婦、乳幼児同伴の保護者）	2,105 （実績ベース）

9

子育て支援（子育て応援5つの無料化）

- 1 保育所・認定こども園の0歳～5歳児の保育料
保育料の無料化
- 2 全保育・学校施設のすべての給食費
給食の無料化
- 3 乳幼児～高校3年生までの方が対象
医療費の無料化
- 4 乳幼児を養育する世帯（生後3か月～満1歳まで）に
オムツ等の無料化
- 5 看護できない場合の一時預かり
病児病後児保育の無料化

**すべて
所得制限
なし**

10

オムツ等の無料化【かさいすくすく子育て定期便】

コープこうべの「宅配ネットワーク」と「地域の見守り」の経験を生かし、生後3ヶ月～満1歳になる月までのお子さまを持つご家庭を対象に、毎月1回、子育て経験のある配達員等が子育て用品をお届けし、**子育ての相談や情報提供**をする子育て支援サービスです。

【サービス開始日】 令和4年10月～

【対象者】 令和4年4月1日以降に生まれた乳幼児を養育している世帯
対象世帯：81世帯（令和4年9月現在）



【配達期間】 生後3ヶ月～満1歳の誕生月まで（最大10回配達／毎月配達）

【内 容】 (1) オムツ等（おしりふき、ミルク等）の支給（カタログから選択）
※3,000円相当
(2) 対象乳児の養育状況の把握及び相談
(3) 子育てに関する情報の提供

【利用料金】 **無料**（商品代や配送手数料等 不要）

【R4年度実績】 利用者199人（11,849千円）



オムツ等の無料化【かさいすくすく子育て定期便】

加西市 かさいすくすく子育て定期便 保存版

赤ちゃん用品カタログ

ご希望の商品を下記から2点選び、注文番号を申請書にご記入ください。
(同じ商品を2点でも可)

品名	サイズ	数量	単位
パナパース スーパーソフト	1	10	箱
パナパース スーパーソフト	2	10	箱
パナパース スーパーソフト	3	10	箱
パナパース スーパーソフト	4	10	箱
パナパース スーパーソフト	5	10	箱
パナパース スーパーソフト	6	10	箱
パナパース スーパーソフト	7	10	箱
パナパース スーパーソフト	8	10	箱
パナパース スーパーソフト	9	10	箱
パナパース スーパーソフト	10	10	箱
パナパース スーパーソフト	11	10	箱
パナパース スーパーソフト	12	10	箱
パナパース スーパーソフト	13	10	箱
パナパース スーパーソフト	14	10	箱
パナパース スーパーソフト	15	10	箱
パナパース スーパーソフト	16	10	箱
パナパース スーパーソフト	17	10	箱
パナパース スーパーソフト	18	10	箱
パナパース スーパーソフト	19	10	箱
パナパース スーパーソフト	20	10	箱

その他、赤ちゃん用品カタログに掲載されている商品も対象となります。

お申し込みは、加西市子育て支援課まで。

お問い合わせ：090-8777-1111

12

病児病後児保育の無料化

加西市では、子育て真っ最中のお父さん・お母さんが安心して働くことができる充実した子育て環境に努めています。
「病児病後児保育」は、就労している保護者の代わりに病気のお子さんを一時的にお預かりする事業です。

【対象児童】 病気療養中・病気回復期の生後6ヶ月～小学校6年生まで

【開設日時】 月曜日～金曜日 8:45～18:00
※ 土曜日 8:45～12:00
※ 日、祝、年末年始、お盆、医院の臨時休診日は休業

【利用方法】 ・前日までに電話予約
・当日の朝でも空きがあれば受け入れ可

【実施施設】 さかいこどもクリニック内「ひまわり」



【利用料金】 **加西市民 無料**
加西市民以外 2,000円/日（月曜日～金曜日）、1,000円/日（土曜日）

【R4年度実績】 利用者262人（17,316千円）

【職員体制】 看護師2名、保育士5名

13

「子育て応援5つの無料化」に係る取組み経過

年	月	取組み内容
H24年	7月	● 中学3年生までの医療費の無料化
H28年	4月	● 4～5歳の保育料を無料化
R元年	10月	● 3歳～5歳の給食の副食費を無料化（主食費は除く） ※ 3歳～5歳の保育料を無料化【国の施策】
R2年	7月	● 医療費の無料化に係る所得制限を撤廃
R3年	7月	● 医療費の無料化を高校3年生まで拡大
R4年	4月	● 「病児病後児保育」の無料化（市内在住者のみ） ● 小中学校の給食費の無料化
	10月	● 「かさいすくすく子育て定期便（オムツ等の無料化）」開始 ● 「子育て応援5つの無料化」に関するwebプロモーション開始 ● 0歳～2歳の保育料を無料化（給食費は保育料に含まれる。）
R5年	1月	● 3歳～5歳の給食費無料化（主食費＋副食費）

子育て支援の更なる強化

14

子育て応援5つの無料化に関する予算[令和5年度]

番号	事業名	R5年度 予算	予算の 主な内容	財源
1	保育所・認定こども園の 保育料の無料化 ＜0～2歳児の保育料＞	1億円	・ 私立こども園等への補助金 1億円 （保育料軽減事業補助金） ※ 0～2歳 給食費含む →対象者：約450人	・ 市負担額 1億円
2	全保育・学校施設の 給食の無料化 ＜すべての給食費＞	2億4,973万円	・ 公立分 給食材料費 4,300万円 ・ 私立分 給食費補助金 3,573万円 →対象者：900人 ・ 学校給食材料費等 1億7,100万円 →対象者：2,873人	・ 市負担額 2億3,273万円 ・ 負担金 1,700万円 （職員給食費徴収額）
3	乳幼児・こどもの 医療費の無料化 ＜高校3年生まで対象＞	1億8,650万円	・ 乳幼児等医療助成費 9,750万円 →対象者：2,409人 ・ こども医療助成費 8,900万円 →対象者：2,942人	・ 市負担額 1億5,089万円 ・ 県補助：3,561万円 乳児 2,489万円 こども 1,072万円
4	乳幼児を養育する世帯に オムツ等の無料化 ＜生後3ヶ月～満1歳まで＞	2,054万円	・ 事業運営管理費 1,393万円 ・ 配達品 661万円 →対象者：約200人	・ 市負担額 2,020万円 ・ 国支出金 34万円
5	病児病後児保育の無料化 ＜看護できない場合の一時預かり＞	80万円	・ 運営費の一部補助金 80万円 →対象者：400人	・ 市負担額 80万円
-	合計	5億5,757万円		・ 市負担額 5億0,462万円 ・ 国・県等 5,295万円

15

出生～高校卒業までの経済的支援

1 保育料の無料化

41万円／年×3年（0～2歳）= **123**万円

2 給食費の無料化

- ・副食費：5万円／年×3年（3～5歳）= 15万円
 - ・主食費：2万円／年×3年（3～5歳）= 6万円
 - ・給食費：5万円／年×9年（義務教育期間）= 45万円
- 合計：**66**万円

3 医療費の無料化

3万円／年×18年（高校まで）= **54**万円

4 オムツ等の無料化

3,000円×10カ月（生後3ヶ月～満1歳）= **3**万円

5 病児病後児保育の無料化

0.25万円

約**250**
万円
(一人あたり)

16

加西市の子育て関係施設

認定こども園（公立4・私立6・公私連携1）	11園
小規模保育所（私立4）	4園
子育て広場	3施設
病児病後児保育	1施設
屋内遊戯型施設&テレワークセンター「アスモ」	1施設
市立小学校	11校
市立中学校	4校
特別支援学校	1校



子育て広場（ぜんぼうキッズ）



加西こども園



小規模保育所（サンライズ保育園）



病児病後児保育
(さかいこどもクリニック内)

17

屋内遊戯型施設&テレワークセンター「アスも」

施設設置の背景

玩具メーカー「ポーネルンド」
によるプロデュース



- (1) 市の女性就業率 64% (H22年) → 66% (H27年)
- (2) 新型コロナによる働き方の変化
- (3) 子育てしながら継続して多様な働き方を可能とする環境整備を整え、子育て世代の転出抑制に歯止めを！

施設設置時期

R5年7月には、
来場者 **5万人** を達成

- 令和4年3月設置
- 地方創生拠点整備交付金（内閣府）を活用



主な施設の機能（特徴）

- (1) 子育て世代が子どもを預けながら働くことができるワーキングスペースの設置
- (2) リモートワークができる個室ブースやWEB会議ができる会議室の設置
- (3) 雨天時でも、子どもと大人と一緒に遊び交流できるエリアの設置（屋内遊戯型施設）
- (4) 子どもの一時預かりスペースの設置（保育士も常駐）

18

屋内遊戯型施設&テレワークセンター「アスも」[遊びのエリア]



19

屋内遊戯型施設 & テレワークセンター「アスも」【ワーキングエリア】



20

屋内遊戯型施設 & テレワークセンター「アスも」【利用料】

遊戯施設

- 当日券
親子 1 組 500 円 / 時間
1 名追加ごとに 500 円
- 年間パスポート（2 名の場合）
【全日（平日 + 土日祝）】
・ 加西市内：4,400 円、加西市外：5,500 円
【平日のみ】
・ 加西市内：3,300 円、加西市外：4,400 円



テレワーク スペース

- 区画ブース 400 円 / 時間
- 個室ブース 500 円 / 時間
- 小会議室 400 円 / 時間 / 室
- 大会議室 500 円 / 時間 / 室
- 年間・月間パスポート有り



※ 「一時預かり保育」 800 円 / 時間



21

子育て支援に係る主な成果

「子育て応援5つの無料化」のプロモーションにより加西市の認知度が向上

R4.10～R5.3の転入アンケート結果（転入世帯数265世帯：302人）

※R4.10より子育て応援プロモーションを開始

	世帯数	割合	人数	割合
5つの無料化が転入の決め手・きっかけ	33	12%	69	23%
5つの無料化は関係なかった	232	88%	233	77%

	世帯数	割合	人数	割合
5つの無料化を知っていた	68	26%	120	40%
5つの無料化を知らなかった	197	74%	182	66%



・引っ越しする際に、近隣と比較したら加西市の子育て支援が手厚かったため加西市に決めた。
・他市町に住む友人から「羨ましい」と言われます。…等

転入世帯数補足
1人世帯=262世帯の内120世帯

22

「子育て応援5つの無料化」のプロモーション戦略概要Ⅰ

市内向け	●チラシ（6000部）・パンフレット（3000部）を作成 姫路市や加古川市のハウジングセンター等でも配布	認知拡大
市外向け	●WEB広告を配信し、制作した特設HPへのアクセスを誘導 HPからPDFパンフレット又はInstagramへ移行 ●WEB広告の強み ①配信エリアの設定、②配信ターゲットの限定、③配信結果の数値化 ●web広告の配信内容 ・年齢層：20代～30代 ・性別：男女 ・配信エリア：兵庫県・大阪府（北部） ・配信期間：10月～1月	認知拡大 Google 広告 Instagram

- 広告表示回数：**6,838,165回**
- 特設HPの閲覧数：**39,667回**
- **1,178人**が規定成果に到達

【規定成果】

- ① Instagramフォロワー数：**1,116**
- ② 特設HPから
 - ・ Instagramへの移行数：**142**
 - ・ PDFパンフレットへの移行数：**95**
- ③ PDFパンフレットのDL数：**365**

23

「子育て応援5つの無料化」のプロモーション戦略概要Ⅱ



24

定住化に向けたその他施策Ⅰ

加西市Uターン促進補助金（H24年度～）

【令和4年度実績】

補助対象者：164名、補助額：8,798千円

概要	奨学金を受けて大学等に進学し、卒業後にUターンして加西市に住まれる方や就職等で加西市に移り住まれる方が返還されている奨学金の一部を補助する制度
対象者	・返還期間が9年以上で奨学金の返還を行っている方 ・前年の所得金額300万円未満の方 ・補助申請する前年度より加西市に住民登録があり、居住されている方
補助金額	前年度中に返還した奨学金の1/3（上限10万円）

加西市大学生等遠距離通学 定期券助成制度（R元年度～）

【令和4年度実績】

補助対象者：145名、補助額：9,623千円

概要	加西市在住で大学等に遠距離通学する方に通学定期券購入費の一部を助成する制度
対象者	・公共交通機関を利用して大学等（高専、専門学校含む）に遠距離通学する方 →北播磨、東播磨、中播磨地域以外の通学が対象 ・年齢が申請日現在において満18以上
補助金額	・北条鉄道を利用する場合：北条鉄道区間：2/3、それ以外は1/2（月額上限1万円） ・北条鉄道を利用しない場合：定期券購入金額の1/3（月額上限1万円）

25

定住化に向けたその他施策Ⅱ（住宅施策）

住宅建築のための宅地供給促進補助制度（H26年度～）

【実績（3年間）】

- ・補助対象者：23件
- ・補助額：9,194千円

概 要	土地の利活用を促進するため、住宅建築等をする方に市街化区域内の土地を売却した土地所有者に対して補助する制度
対象者	自己の所有する市街化区域の土地を次の①～③のいずれかに該当する第3者に対して、売却する方 ① 戸建て住宅を建築する者 ② 賃貸共同住宅等を建築する者 ③ 住宅分譲地を整備する者
売却期間	H25.4.1～H28.12.31（時限措置）
補助金額	長期譲渡所得金額の3%（上限100万円）

加西市賃貸共同住宅等 建設促進補助事業（H25年度～）

【令和4年度実績】

補助対象者：12件、補助額：5,351千円

概 要	市街化区域に建設されたアパートの固定資産税・都市計画税相当額を補助する制度
対象者	新たに市内で賃貸共同住宅を建設し、その所有者となる法人又は個人 ※H28年1月までに完成するアパート（単身者向けアパートはH29.1まで）
補助金額	・単身者向けアパート：10年間補助 ・単身者向け以外のアパート：5年間補助

26

今後の課題

01 若者世代の雇用の場の確保

- 製造業等市内企業の認知度向上を目指したPRへの支援
- 起業チャレンジへの支援

02 更なる分譲地の整備

- 市街化区域内にて分譲地が不足
→住宅供給量が不十分、低未利用地の増加
- 子育て世代の転入促進、転出抑制に向けては新たな分譲地の整備が必要不可欠

03 産後ケア施設の充実

- 産後ケアの認知拡大
- より手軽に、幅広い人が利用できるようなサービスの提供
（育児負担の軽減）

04 外国人住民への対応

- 増加する外国人住民への支援
→労働、生活面において必須となる日本語力向上への支援等

27

兵庫県丹波市 視察資料

(1) 複数学年複数担任制について

“複数学年複数担任制”のここが知りたい！

- Q 子どものことで相談したい時は、どの先生に連絡すればよいのでしょうか。
A 高学年担任の誰にでも相談してください。誰に言って良いかわからない場合は、「〇年〇組のホームルーム担当の先生をお願いします」と伝えてください。
- Q 何かあった時の責任の所在が分かりにくくなるのではないですか。
A 支援が必要なお子さんは、年度当初に担当を決めておき、4月の懇談会でお知らせします。また、予測できなかった事案については、発見・察知した先生が責任を持って対応し、場合によって対応に適した先生が支援に加わります。
- Q これまで通り、丁寧に見てもらえるのですか。
A 教育には、丁寧に見なければならぬ時と一歩だけ離れて見守る時が必要です。支援が必要と感じた時には、複数で対応します。また、我が子に支援が必要と感じられたら、遠慮なく学校にお伝えください。複数で対応いたします。
- Q 個別懇談は、だれがするのですか。
A 個別懇談は、保護者の指名によって対応する先生特に希望する先生がいない場合は、こちらで決めていきます。多面から見たお子さんの様子を知るため、面談希望の先生を変えられることをお勧めします。
- Q ホームルーム担任は、どのようなタイミングで交代するのですか。
A 児童と先生の関係が固定化しないよう、およそ1カ月で交代します。しかし、いじめや不登校など児童の実態によっては、一定期間を気にせず交代することもあります。また、学校行事や学習指導による交代もあり、タイミングは様々です。
- Q このシステムで、先生はどのように変わりますか。
A これまで以上に、子どもを認め（良き行動も失敗も）、子どもに判断させる時間を与えられる先生になる必要があります。まずは、子どもに考えさせ、先生の思いと違って認め、アドバイスを与えられる先生を目指す姿です。
- Q 成果や課題は、どのように図るのですか。
A 兵庫教育大学から3名の先生にお世話になって、検証いただいております。また、適応度を測る質問紙調査『アセス』や年2回の学校評価アンケートをもとにして、成果と課題を明らかにしていきます。

丹波市立中央小学校

〒669-3601 兵庫県丹波市氷上町成松 186-1

TEL 0795-82-1033 FAX 0795-82-1508

URL <http://www.tamba.ed.jp/site/chuuou/>



これまで100年以上続いた学級担任制を廃止し、4年生以上の学年は、教科担任制と複数担任制をあわせ持つ新しい担任システムを導入しました。

これにより、未来に生きる子どもたちにとって最適な教育を実現していきます。



授業の方法・質

多様化する支援

自律する力

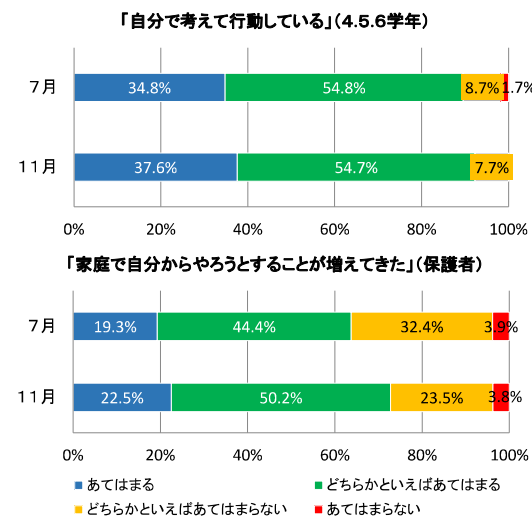
先生の働き方

CHANGE!

教科担任制＋複数担任制

01 子どもの自律力up!

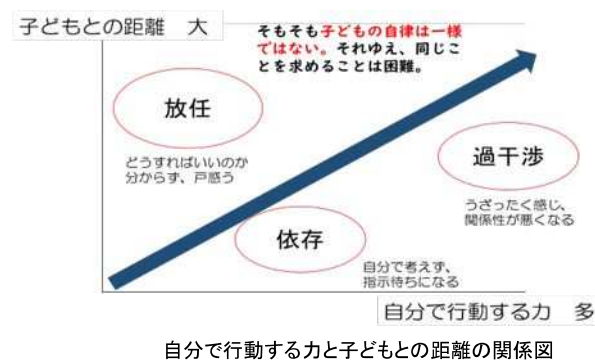
- 固定した学級担任がないため、子ども達で考える場面が増えます。それが、学校生活をつくる当事者意識につながります。
- どの先生にも相談できるとともに、相談する先生を自分で選ぶことができます。



子どもが司会進行する授業



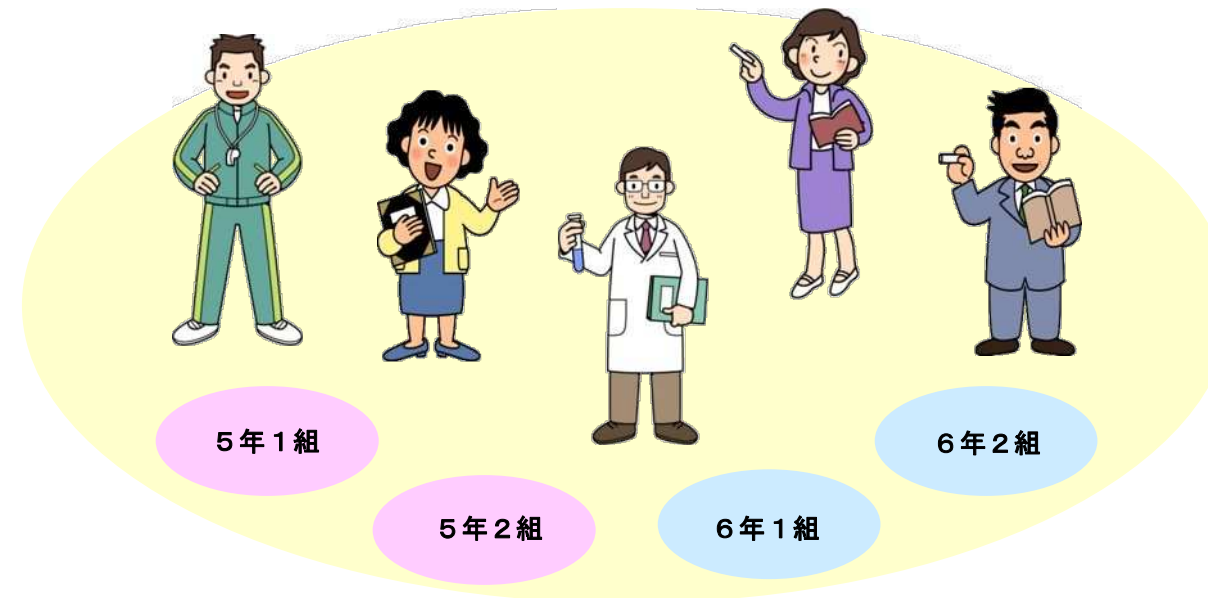
自分のペースで学習する授業



02 多様な支援を実現!

- 5人全員が担任であり、子ども達を5人の目で見守り、支援します。
- 子どもの状況、支援の内容によって、適任の先生が支援にあたり、最大5人の先生で支援することが可能です。
- ホームルーム担任は、子どもの実態に応じて代えていきます。

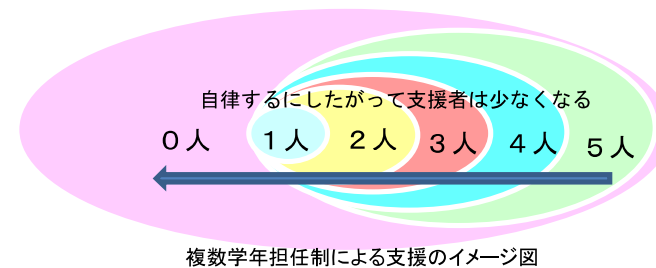
複数学年複数担任制 4つの魅力



5人の先生が、4つの学級をサポートします!

5.6年生担当教員の分担教科

A教諭	B教諭	C教諭	D教諭	E教諭
5.6年国語16h	5.6年算数20h	5.6年理科12h 5.6年家庭科6h	5.6年社会12h 5.6年体育4h	5.6年音楽4h 5.6年図工6h 5.6年外国語8h
3年外国語2h			4年外国語2h	
総合、道徳、特別活動は交代で担当				



ホームルーム担任との朝の時間

2020年度に高学年担任が支援した数(短時間支援は含まない)

	支援0	支援1	支援2	支援3	支援4	支援5
6年生(36人)	18人(50.0%)	6人(16.7%)	5人(13.9%)	3人(8.3%)	2人(5.6%)	2人(5.6%)
5年生(38人)	14人(36.8%)	8人(21.1%)	9人(23.7%)	5人(13.2%)	2人(5.3%)	0人(0%)
4年生(43人)	21人(48.8%)	11人(25.6%)	8人(18.6%)	2人(4.7%)	1人(2.3%)	0人(0%)



ミニ職員室“Tルーム”

03 先生の授業力up!

- 先生の得意な教科、指導したい教科など自信と意欲に応じて担当教科を決めるので、「わかる授業」「楽しい授業」が増えます。
- 担当する教科が絞れることで、授業準備が短時間になり、より深い教材研究が可能となります。
- 2学年の教科を縦持ちすることにより、系統性を重視した専門性の高い授業が実現できます。



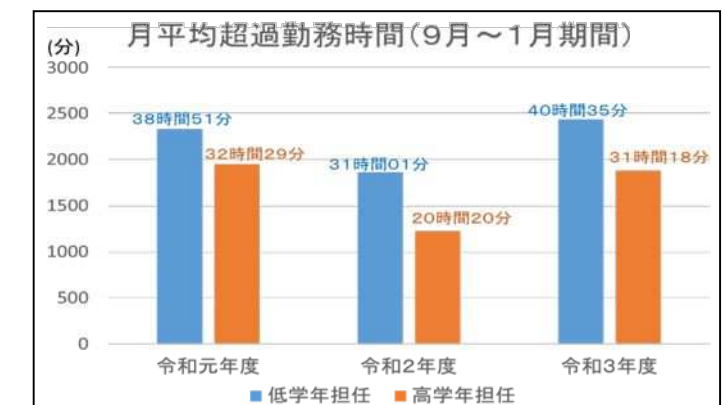
教科担任による授業



ホームルーム担任による道徳の授業

04 先生の元気力up!

- 5人の先生が相談して指導・支援にあたるので、先生の安心感につながります。
- 先生の特技・特性を活かせるので、やらされ感はなく、教材準備も焦点化されるため、勤務時間は短縮します。
- 「私の学級」という意識がなくなることで、出張に出やすく、年次休暇も取得しやすくなります。



自律する力を育む 未来に生きる力を育む教育をめざして
～複数学年複数担任制の導入～

lineup

- ・中央小学校 概要
- ・初年度の成果と課題
- ・複数学年複数担任制とは
- ・導入に向けた取組
- ・学級経営・学習指導・授業改善
- ・自律する力を育む取組

令和5年11月9日(木)
丹波市教育委員会
丹波市立中央小学校

中央小学校の概要

(令和2年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	40	41	44	43	38	36	242
(特支)	0	3	3	2	3	0	11
学級数	2	2	2	2	1	1	10

(令和3年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	37	41	41	44	43	38	244
(特支)	2	0	3	3	2	3	13
学級数	1	2	2	2	2	1	10 line up

中央小学校の概要

(令和4年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	49	39	41	41	48	44	262
(特支)	3	3	0	3	3	3	15
学級数	2	2	2	2	2	2	12

(令和5年度)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
人数	31	48	39	41	41	47	247
(特支)	5	4	3	1	4	3	20
学級数	1	2	2	2	1	2	10 line up

中央小学校の概要(令和2年度)

・たくましさ不足

全員出席 14日
宿題をしていないので休みたい
「自分にはできない」と先に決めてしまう

・自律心の不足

適切な判断、行動ができない
相手によって態度を変える

・学習意欲の低下

宿題忘れが目立つ
読書できない子が増えている

line up

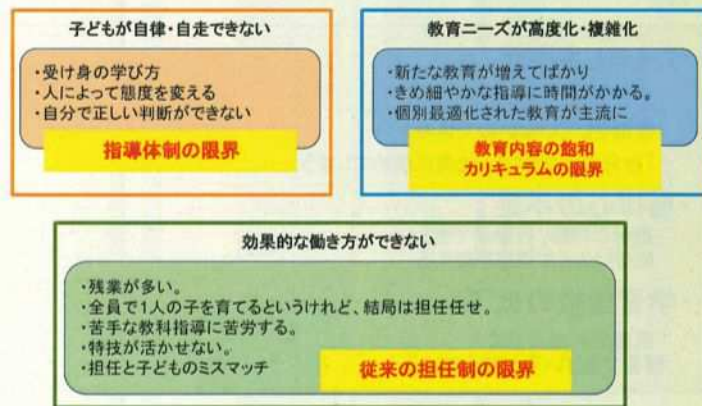
中央小の職員室では・・・



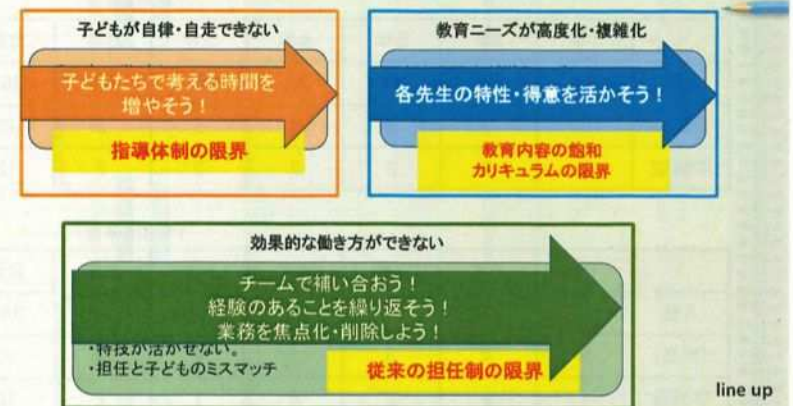
中央小の職員室では・・・



導入の必要性



導入の必要性



複数学年複数担任制とは

5人の教師で、4年生以上の教科を分担して指導(教頭を含むと6人)

A先生	B先生	C先生	D先生	E先生
国語20h	算数20h	理科12h 体育9h	社会12h 外国語6h 体育T2 2h	3～6年音楽11h 4年図工 3h 算数T2 5h
総合2h 道徳1h 学活1h				

兵庫型S(15h)5・6年図工・家庭科6h 兵庫型(23h)3～6年算数18h



複数学年複数制とは

5人の教師で、4年生以上の教科を分担して指導(教頭を含むと6人)

	1学期	2学期	3学期
4年生	だれにでもやさしい町 A・E教諭	河川改修 B・A教諭	10歳の未来予想図 E・B教諭
5年生	自然学校を伝えよう C・D教諭	みんなが幸せに生きるために D・E教諭	届けよう!ありがとうのメッセージ A・C教諭
6年生	平和で幸せに生きるために B教諭	人々の生き方から人権を学ぶ C教諭	卒業プロジェクト D教諭

line up

複数学年複数制とは

5人の教師で、4年生以上の教科を分担して指導(教頭を含むと6人)

令和2年度 ホームルーム担任の実際(1学期)

	4-1	4-2	5年	6年	高学年マネ
4/7～	足立	南	藤井	梅田	高橋
6/15～	高橋	梅田	足立	南	藤井
7/13～	藤井	高橋	梅田	足立	南
8/24～	藤井	足立	南	梅田	高橋

8/8～8/23:夏休み

line up

複数学年複数担任制とは

HR担任交代のタイミング

第1優先

子どもへの特段の支援(いじめ・不登校)が必要になった時
⇒最適な先生が支援できる体制

第2優先

教育活動・学校行事との関連が出てきた時
⇒先生が円滑に活動できる体制

第3優先

子どもとの関係が固定化する前(およそ1か月)
⇒子どもと教師がほど良い距離がとれる体制

line up

導入に向けた取組

- ・千代田区立麹町中視察(H31.1月)
- ・大阪市立大空小視察(R1.12月)
- ・横浜市立下田小視察(R1.12月)

◦目的と手段という視点で見直し
◦見習う点の共有 (全視察 教員2名)

- ・学校長からの提案(R1.8月)
- ・職員会議で協議(R1.9月、10月)
- ・プロジェクトチーム会議【全6回】(R1.11月発足)

◦いろいろな立場、視点 ◦多様な思い、価値観を共有

- ・第3回内容
 - めざす児童の姿
 - めざす教師像
 - 試行実施(教育相談、スペシャル授業)
 - 指導について(教科指導、生徒指導)
 - 保護者対応
 - 学校行事、学年行事
 - チームマネージャーの役割
- ・学校運営協議会
- ・保護者会(2回) ◦資料参照



line up

導入に向けた職員風土

以前の話

- 管理統制された学校(細かいルールがたくさん)
- ex. 生活のルール、学習のルール
- ⇒子どもたちは、ルールを守ることが目的になっていた。
- ⇒教職員が子どもたちをコントロールしていた。

「やってみよう」

- 先生が見守る。
- ⇒子どもたちを認める。
- ⇒「失敗してもいい!」失敗から学んだらいい。
- ex. 児童会活動、授業づくり、職員会議

子どもに対する関わり方改革

line up

自律に向けた学級経営・学習指導・授業改善

学校評価アンケート(2020.7月～11月)



line up

初年度の成果と課題(児童の視点)

成果

- 「自分で考えて行動している」児童が多い。
- 先生によって態度が変わる子が少なくなった。
- 多くの先生と関わることを楽しんでいる。

課題

- この先生に見てもらいたい、1人の先生に見てほしいと思っている子にとっては、不満。
- よく言えば「のびのび」だが、悪く言えば「自分勝手」
- 他愛もない会話をする時間がない。

line up

初年度の成果と課題(教師の視点)

成果 ○職員室で、児童の話題が増えた。多面的な理解が広がった。

○責任が分散することでストレスの軽減が図れる。

○教科指導の専門性が高まった。

○チームで対応する意識が高まった。

○“自分の学級”という意識が少ないため、年休がとりやすく、

⇒超過勤務時間が少なくなった。

課題 ○不登校、いじめ対応、生徒指導事案など、情報共有、支援の時間が増えた。

⇒きめ細やかな支援の難しさ。

○一日の中での変化に気が付きにくい。

○時間割編成に時間がかかる。

○個別懇談や通知表作成などにこれまで以上に時間がかかる。

line up

ご清聴、ありがとうございました。

line up

兵庫県丹波市 視察資料

(2) 丹波市の教育資源を活用した教育について (丹波竜化石工房「ちーたんの館」)

ふるさとへの**愛着**と**誇り**を育み
未来の丹波市を担う人を育てる

「たんばふるさと学」



丹波市教育委員会

平成28年4月

たんばふるさと学とは

「たんばふるさと学」とは、ふるさとの自然・歴史・文化・産業・人物などの教育資源を活用した学習をすすめ、豊かな心やふるさとへの愛着・誇りを養う教育です。



こんにゃく作り



とんど祭り

地域の先人や偉人などの「ヒト」。
地域で大切にされている寺社や史跡などの「モノ」。
地域に受け継がれる祭りや産業などの「コト」。
これらは魅力的な教育資源です。

子どもたちの自然・社会体験の不足や規範意識の低下が問題になっています。各学校で、ふるさとを舞台にした体験活動や、地域の人と触れ合う活動など子どもたちがいきいきと学べる活動を展開します。



間伐体験



大豆収穫

地域住民が積極的に学習を支援することで、地域と学校の連携をより強化し、地域教育力の向上をすすめます。

丹波市には、田植えや稲刈り、川遊びなどを経験したことがない子どももたくさんいます。地域のみなさんに教えていただくことが、たくさんあります。



竹田川での魚とり

ふるさとへの愛着や誇りを育みます



鴨庄川の学習

地域には自然や歴史、文化、産業、行事など、たくさんの魅力があります。それらを教材にして、ふるさとに対する認識を深める学習が、たんばふるさと学の出発点です。

地域の自然や歴史の持つ価値に触れたり、先人の偉大さを学んだり、産業の功績を学んだりする学習を通して、ふるさとへの愛着やふるさとを誇りに思う心情を育みます。



炭焼き体験



酒米の稲刈り

ふるさとへの愛着や誇りを持つ子どもたちは、将来にわたって、ふるさとに積極的にかかわろうとする意欲を持ちます。まさに、“ふるさとの宝を育てる”ことが、たんばふるさと学です。

地域の魅力が、素晴らしい教材になります！



豊かな人間性や社会性を育みます



栗園を訪ねて

地域の自然や文化、歴史、産業には、長年携わっておられる“人”や、詳しく語り継いでおられる“人”がいます。そんな“人”と出会い、直接お話を聞く活動が、たんばふるさと学の出発点です。

地域の人にインタビューをしたり、何度も話をうかがったりするなど、たんばふるさと学では、地域の人とつながる体験を大切にしています。その活動を通して、子どもたちの人間性を高めていきます。



学山に出かけて



子ども相撲

たんばふるさと学の学びを通して、自分と地域の人・ふるさとが繋がっていることを実感します。その実感が、「わたしもふるさと丹波市の一員だ」という社会性を育むのです。

地域住民とのつながりが、学習の質を高めます！

インタビューをして
よくわかったよ！



実際にやってみると
難しいなあ

わたしもふるさとのために
何かできることがあるかなあ



豊かな心を育みます



牛舎訪問

地域の美しい自然や、素晴らしい文化・産業、重厚な歴史など、地域には価値ある教育資源がたくさん存在します。それらに触れる体験が、たんばふるさと学の出発点です。

地域の教育資源を語り伝えてくださる人、伝統を守っておられる人。そのようなゲストティーチャーに出会い、その努力や願いを知る活動を通して、子どもたちは大きな感動体験をすることができます。



松皮むき



シルバーステイ訪問

自分たちのために時間をつくり、準備をしてくださる地域のゲストティーチャーとの出会いを通して、子どもたちの感謝や思いやりの気持ちを育みます。

地域での出会いや体験が、子どもの心を耕します！



感謝

尊敬

わたしのふるさとって
素敵だなあ

親しみ



主体的に学ぶ姿勢を育みます



みそづくり体験

“後継者不足”、“自然環境の変化”、“過疎化”など、地域にはそれぞれに様々な課題があります。自分たちの住む地域の課題について知ることが、たんばふるさと学の出発点です。

子どもたちは地域に出かけ、地域の人と出会いながら、地域について詳しく調べる活動を行います。地域を舞台に、探求心や学習意欲をもって、いきいきと子どもたちは学び続けます。



稲刈り体験



石碑の学習

たんばふるさと学では、友だちと一緒に計画を立てたり、取材を行ったりします。教師の教え込みではなく、自分たちで協力・協働しながら学習をすすめることで、より主体的に学ぶ姿勢を育みます。

ふるさとを知ることが、学ぶ喜びを大きくします！

みんなで考えたいな
これも調べたいな
もっと知りたいな

**地域の課題
地域の願い**



ふるさとへの
愛着や誇り

みんなに伝えたいな
自分にできることは？

**達成感
学ぶ楽しさ**

一たんばふるさと学一

丹波竜大好きプロジェクト

毎年、全ての小学校6年生が、「川代公園」「ちーたんの館」「元気村かみくげ」を訪れ、丹波竜を教材にしたふるさと教育を行っています。



先生から地層の話を聞く子どもたち

1

川代公園で地層の学習

「川代公園」では、理科の「大地のつくりと変化」の学習をします。地層や断層を見たり、岩石に触れて違いを比べたりと、五感を使いながら知識を深めています。

2

「ちーたんの館」で丹波竜の学習

「ちーたんの館」では、展示物を見ながら、丹波竜に関する知識や発掘調査の歴史を学びます。丹波竜化石が貴重な発見であることを知り、子どもたちも瞳を輝かせながら学んでいます。



丹波竜化石の発見者である村上茂さんにインタビューをする子どもたち

3

「元気村かみくげ」で発掘体験

「元気村かみくげ」では、指導員に教えてもらいながら、子どもたちは化石発掘体験を行います。毎年たくさんの化石を発見しています。太古のロマンを感じる瞬間です。



ドキドキしながら、指導員の化石判定を待つ子ども

丹波竜の学習を通して、丹波市の魅力やすばらしさをあらためて感じる機会になっているね。



『たんばふるさと学』 Q & A

Q1 「たんばふるさと学」は誰がすすめるの？

A1

学校と地域が「ともに考え・ともに教える」。それが「たんばふるさと学」です。学校では、地域とのパイプ役である「学校支援コーディネーター」とともに学習計画を立て、地域の方がゲストティーチャーとなって学習を展開していきます。



地域住民による教職員向けの校区史跡
学習会

また、地域行事等の中では、地域の人々と交流しながらふるさとの素晴らしさを体験し学んでいきます。学校と地域、子どもたちに関わる全ての人で、ふるさと丹波を愛する子どもたちを育てていきます。

学校と地域がつながって、地域ぐるみでふるさと丹波で生きる子どもたちを育てましょう！



Q2 「たんばふるさと学」に参加できるの？

A2

「たんばふるさと学」は、ふるさとの自然・歴史・文化・産業・人物などについて学習します。それをよく知る地域のみなさん全員が、“ふるさと教育の先生”なのです。

地域のみなさんの知っていることや工夫・苦労されていることを聞いたり、技術を見学したりすることが、子どもにとっては貴重な勉強です。ぜひ、「たんばふるさと学」に参加し、子どもたちの学習をお手伝いください。

問い合わせはお近くの小学校まで。



和楽器の体験学習



「ちーたんと学ぼう」

ぼくと一緒に
丹波竜のひみつを
見つけよう！

丹波竜はどのように化石に
なったのだろう？



川代公園付近は、丹波竜の
いた時代どのような地形
だったのだろう？

()年 ()組 ()番

名前()

☆「丹波竜」は、丹波市産竜脚類化石を表す愛称で、学術名ではありません。

作成 丹波市教育委員会
監修 兵庫県人と自然の博物館

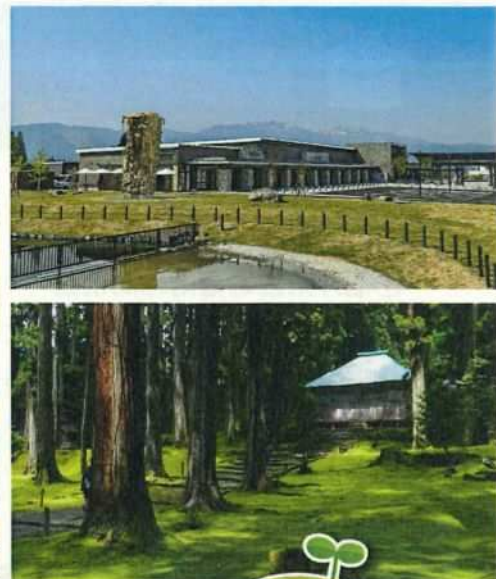


FUKUI KATSUYAMA GEO PARK

勝山市全域をエリアとして、「恐竜、恐竜化石」をメインテーマに掲げた、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」は日本ジオパークに認定されています。



福井県立恐竜博物館 展示



丹波市こども

恐竜大使

募集人数 8名

丹波竜を伝えに福井県勝山市に行こう！

令和5年

10月7日^土～9日^月祝

丹波市では、全国でもめずらしい恐竜化石が発見されています。他の県の小学生と一緒に丹波竜の化石などについて学び、新しい発見をしましょう。そこで学んだ丹波竜の化石の事などを「丹波市こども恐竜大使」として、勝山市の小学生に紹介してみませんか。勝山市では昭和63年（1988）に小型肉食恐竜の歯の化石の発見以来、貴重な恐竜化石が数多く発見され、学名を持つ恐竜の数は日本一です。恐竜化石を通じて丹波市と勝山市の地域の特色や化石の違いなどを発見して学ぶ「竜学」にでかけませんか。



【問合せ先】

丹波市教育委員会 学校教育課 電話 0795-70-0811

主催：丹波市・丹波市教育委員会 協力：福井県勝山市 商工文化課





丹波竜を伝えに福井県勝山市に「竜学」しよう！

概要

- ①福井県立恐竜博物館視察
- ②かつやまこども恐竜LABOとの交流体験学習
- ③勝山市立平泉寺小学校との交流体験学習など
- ④丹波市での「竜学」報告会

対象

- ・丹波市内の小学6年生(8名)

負担いただく費用

- ・旅費 1人/10,000円(予定)

- ・飲食費 自己負担

※急病など、やむを得ない理由によりキャンセルになった場合、キャンセル料にかかる費用はご負担願います。

竜学のスケジュール(予定)

- ・8月～9月 事前学習会

- ・10月7日(土)～9日(月・祝)

- 1日目 移動・勝山市関連施設訪問視察
- 2日目 かつやまこども恐竜LABOとの交流体験活動に参加など
- 3日目 福井県立恐竜博物館見学ほか移動・帰宅

- ・10月下旬～11月 事後学習会

- ・12月3日(日) 竜学報告会

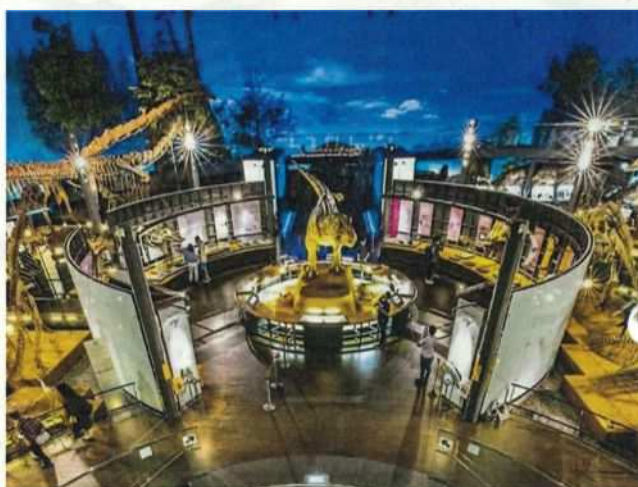
保護者の方へ

丹波市では恐竜の化石が発掘されたことにより、子どもたちは理科「大地のつくりと変化」の学習の中で、教科書だけではなく、実際に化石や地層を自分の目で見るすることができます。

また、化石発掘を体験できる恵まれた環境にあり、丹波竜化石は子どもたちの宝物となっています。

勝山市は、恐竜化石の宝庫として全国的にもその名が知られる世界三大恐竜博物館の一つ、「福井県立恐竜博物館」があり、勝山市の小学生が恐竜をテーマに様々な学習・活動を行う「かつやまこども恐竜LABO」などもある恐竜のまちです。

互いに恐竜の化石を地域の宝物として、子どもたち同士が交流して学び、忘れられない貴重な経験となることを願っています。



世界三大恐竜博物館の一つ、「福井県立恐竜博物館」

申し込みについて

申込方法

- ・別紙申込書とレポート『「竜学」を通して学びたいこと・やってみたいこと』(300～400字程度)をあわせて、6月21日(水)までに担任の先生に提出してください。

選考方法

- ・応募者多数の場合は、レポートにより選考します。
- ・選考結果は、7月中に申し込み者へ郵送でお知らせします。
- ・選考後、8月に説明会を開催します。

問合せ先

丹波市教育委員会 学校教育課 電話 0795-70-0811



恐竜関係事業概要

2023. 11. 09

【恐竜化石の発見からこれまでの主な経緯】

平成 18 年（2006 年）

8 月 7 日、丹波市山南地域の篠山川河川敷で市内 2 人の化石愛好家によって恐竜の肋骨化石が発見される。



平成 19 年（2007 年）

丹波市に「恐竜を活かしたまちづくり課」発足。発見された恐竜化石は「丹波竜」と愛称で呼ばれ、地域の活性化に結びつけまちづくりを目的とした「丹波竜の里計画」を策定。また同年 12 月 1 日に発掘された化石のクリーニング作業や、発掘状況に関する情報展示など丹波竜の情報発信のために山南住民センター内に「丹波竜化石工房」をオープン。現地の発掘調査は平成 19 年度の第 1 次発掘調査から出水気を避けた冬場に毎年行い、平成 23 年度の第 6 次発掘調査まで実施。



平成 22 年（2010 年）

丹波竜化石工房のこれまでの機能に加え展示や体験学習機能の充実や、丹波竜等篠山層群化石の情報発信などを広域的に行う施設として、地方創生交付金等を活用して支所庁舎を改修し、12 月 4 日、丹波竜化石工房「ちーたんの館」をリニューアルオープン。（工事費約 1 億円）



平成 26 年（2014 年）発見から 10 年

愛称としての「丹波竜」が、研究成果として親属新種の恐竜「タンパティタニス・アミキティアエ」と正式な学術名として命名され、平成 28 年 4 月、「丹波竜全身骨格模型」完成。（製作費：39,852,000 円）



平成 28 年（2016 年）

平成 23 年度から社会資本整備総合交付金事業を活用し、化石発掘現場の展望台や遊歩道、丹波竜モニュメント、丹波竜の里公園等の整備を行い平成 28 年度に完成。

令和 2 年（2020 年）

新卵属・新卵種恐竜卵殻 学名「ヒメウーリサス・ムラカミイ」発表「世界最小の恐竜卵化石」としてギネス世界記録認定される。

これまでに 6 種類の卵殻化石が発見され全て正式に学術誌に報告。



【丹波竜化石工房・丹波竜化石発見現場来場者数（R5.3月末）】

- ①丹波竜化石工房ちーたんの館： R4年度 75,694人（R3 57,856人、R2 52,326人）
 ②丹波竜化石発見現場： R4年度 53,411人（R3 41,717人、R2 41,666人）

【丹波竜化石工房来館者推移】



※令和3年11月3日 50万人突破

「令和5年4月～9月末現在」

- ① 丹波竜化石工房：31,419人（累計627,102人）
 ② 化石発見現場：22,174人（累計439,516人）

1. 恐竜による活性化策

- ・発見現場周辺の整備や普及活動は、丹波竜の里計画により地元の協力を得ながら恐竜化石だけでなく、豊かな自然環境を活かすとともに、発掘現場と化石工房との連携を図り、体験学習などを通じて自然や人々の豊かさや大切さを再認識しながら化石・地層などについてより深く学べる連携事業を推進。
- ・丹波竜をはじめとする骨格や生体を絵画で表現し、多くの方に周知するため「篠山層群復元画丹波プロジェクト（平成24年7月～平成26年3月）」により、精度の高い生体復元図や生体環境復元図を制作。
- ・エデュティンメイト（楽しみながら学ぶ）を基本として、セミナーやワークショップ充実と共に、市民をはじめとした幅広い年齢の来訪者が集う魅力ある施設づくり目指し、教育普及専門員による、展示内容の充実や教育普及活動、企画展の開催等により丹波竜化石工房の機能拡充を図る。
- ・毎年、丹波竜化石工房がリニューアルオープンした12月に「丹波竜フェスタ」を開催。恐竜研究者などを招いた講演会をはじめ、地元関係団体による恐竜発掘体験、市内の飲食店ブースなどの出展などにより、大人から子供まで恐竜に親しんでもらえるイベントを実施。（令和4年度経費：3,828,000円）



- ・丹波市や丹波竜のPRのため市内外イベントに「丹波竜のちーたん」とともに参加。(年10回程度)
- ・にっぽん恐竜協議会による協力連携と恐竜を活かしたネットワークの拡大として、恐竜化石を活かしたまちづくりが行われている自治体と連携協力を行い、より一層の本市の恐竜を活かしたまちづくりを推進。

【令和5年度(9月末現在)実績】

- ・7/23～9/3 丹波竜化石工房夏期特別展開催(特別展来館者数:12,760人)、セミナー・ワークショップ開催(13回)、丹波竜フェスタ(12/3開催予定)

2. 地元住民への関心度アップの方策(子ども達への教育も含めて)

- ・「丹波竜」や「恐竜化石」への関心や、大人から子どもまで丹波竜化石を地域資源としての愛着をもってもらうため、マスコットキャラクターを全国公募し、「丹波竜のちーたん」が平成21年1月に誕生。地域のイベントや市内外の「ゆるキャライベント」などに参加して丹波市や丹波竜のPRを行っている。また「丹波竜ちーたん」の着ぐるみの貸出しを行い地域イベント等で活用。
- ・市内小学生等を対象に化石や篠山層群の地層について学ぶ学習プログラムの実施や、恐竜や化石を題材としたセミナーやワークショップを教育普及専門員や県立人と自然博物館研究員等の外部講師を招いて毎月1回～2回実施。
- ・地域の主体的な運営や連携を目的とし、化石発見地の地元「上久下地域自治協議会」に恐竜化石発見現場周辺・旧上久下村営上滝発電所記念館での案内説明や監視など管理運営を業務委託。また、地域が運営主体となる「元気村かみくげ」を立ち上げ、石割発掘体験をはじめ軽食提供や物販などにより、関係人口や交流人口の増加を目指す。



3. 経済的な効果

- ・丹波竜化石工房内の充実や集客力向上を図るとともに来館者に市内観光情報などを提供するため、恐竜グッズなどを中心とした物販を丹波市観光協会に業務委託し、来館者を増やすとともに地域活性化を図る。
- ・丹波竜化石工房の年間入館者数は、コロナ禍の規制が緩和されるにつれコロナ禍以前の状況に少しずつ戻りつつある。コロナ禍で都心部の各体験施設が休館するなかでも開館し、丹波竜化石工房の来館者と連動し、丹波竜の里公園へも都心部や近隣から想定以上の来訪者数となった。丹波竜化石工房は、平成22年12月にリニューアルオープンしてから令和3年11月には来館者が50万人を突破し、令和4年度のゴールデンウィーク中には、来館者が連日1,000人を超える日もあり、ゴールデンウィーク中の過去最高の来館者を記録。今年度開催した夏期特別展においても、期間中27,185人となり特別展過去最高の来館者数を記録。
- ・恐竜課で情報発信や運営を管理するホームページ「丹波竜.com」のアクセス件数は、R1:165,833件、R2:221,531件、R3:310,575件、R4:353,924件と年々増加しており、SNSなどの活用など合わせ、コロナ禍でも丹波竜などへの関心につながっている。
- ・丹波竜の里公園来場者は、10年前の平成23年(9,916人)と比べると、R2:41,666人、R3:41,717人、R4:53,411人と増加しており、化石発見現場(元気村かみくげ)の利用者の増加になっている。

4. 県との関係は 発掘費用、博物館運営、化石の所有権、埋蔵地の所有権

平成 19 年 5 月 18 日 丹波竜の活用に向けて丹波市、兵庫県、県立人と自然の博物館による「恐竜化石に伴う連携協力に関する覚書」を締結(三者連携)し、それぞれの専門分野別に連携しながら、丹波竜等化石の運用と活用を図っている。

「県立人と自然の博物館」…発掘調査、収蔵保管・所有、学術的研究の推進、監修・学術的支援等

「丹波市」…化石調査に関する現場周辺環境整備、化石工房運営・普及活動及び地域振興策の推進等

- 「兵庫県」…発掘調査費用、埋蔵地所有(河川内)、広域的観点からの調整、普及啓発、利活用事業等
- ・発掘調査は、兵庫県立人と自然の博物館が主体となり兵庫県が発掘費用を負担し、第 1 次～第 6 次発掘調査を実施、丹波市は普及啓発活動及び、地域振興策を推進。
 - ・化石の所有は県立人と自然の博物館。
 - ・埋蔵地の所有権は河川区域内のため兵庫県(土木事務所管理)。

5. 丹波竜化石工房の施設機能・教育普及の拡充について

丹波竜化石工房は、発掘された化石のクリーニング作業や発掘状況等に関する情報展示や体験型学習の拠点施設として市民に親しまれ、丹波竜が伝える丹波市の「自然」「歴史」「教育」「観光」を未来へと継承する施設として開館してきましたが、リニューアルから 10 年以上が経過し、展示スペースの制約から篠山層群産化石に関する展示が十分に整備されていないことや、教育施設が必要とする展示が現在不足している課題などがある。

生涯学習施設として学術的にも貴重な化石や自然への好奇心を育み、地域に根付く丹波の地質や化石の情報発信拠点機能と教育普及の充実を図るため、令和 7 年 7 月上旬のリニューアルオープンを目指して、現在、公募型プロポーザルによる丹波竜化石工房拡充工事関連業務を進めている。